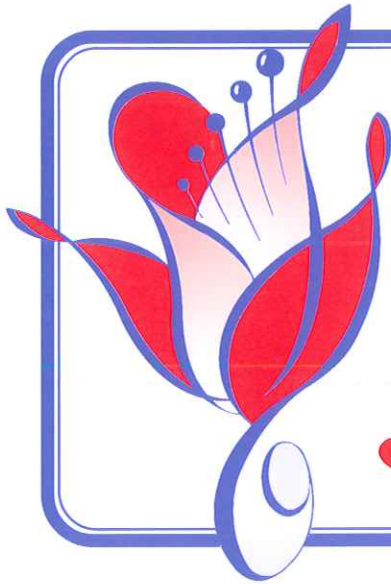


自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。(レビ記 19-18)

人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。(マタイ 7-12)



ひびきあい

HibikiAi

聖ヨハネ学園だより

発行：聖ヨハネ学園 〒569-1032 高槻市宮之川原2-9-1 TEL&FAX072-687-0548

本年度(平成二七年)を初年度として 家庭環境に近い生活環境の整備に取り組みます。



児童養護施設
聖ヨハネ学園
施設長

小野 聖

現在、増え続ける児童虐待や発達に課題を抱える児童、また子どもの貧困など多くの課題を抱えています。そして子ども人口の減少にもかかわらず施設入所児童は増えることはあっても減ることは予想できないという厳しい状況にあります。このような状況にあって、厚労省は「社会的養護の課題と将来像」を取りまとめる中で、社会的養護は原則として家庭養護を優先するとともに、「施設養護もできる限り家庭的な養育環境の形態に変えていく必要がある」と今後の方向付けを明確に示しました。

計画期間は本年度をスタートとして五年毎を区切りとして一五年を設定しています。この内容を受けて「児童養護施設等の小規模化および家庭的養護の推進」にむけて、大阪府との協議を進め、学園においても将来に向けた推進計画を策定しました。

施設の小規模化は「家庭的養護と個別化」を行うものであり、「当たり前の生活」を保障するものであることと将来像のなかで位置づけられています。

現状においては「施設が九割、里親が一割」であるのに対して一五年先(平成四一年)には本体施設、グループホーム、里親等の割合を三分の一ずつにしています。

学園の現状は、マリヤ館(幼児・小学生)、ノア館(中学生)そしてエステル館(小規模グループケア)と三棟の構成になっています。

小規模グループケアを2ヶ所展開していることにより小規模化にむけてはワンステップの段階にあるといえます。今後の課題としては、地域小規模施設の開設。施設内の生活棟のユニット化の具体的な計画策定。そしてその基盤となる資金積み立てと人材確保育成への対応が急務です。

そのために法人と一体となって職員採用、研修計画、職員連携(小規模化による孤立防止)、働きやすい風通しのよい組織づくりに取り組みでいきます。

児童養護施設運営は今、大きな変化に直面しています。

(二面へつづく)

これをチャンスととらえ、子どもたちにとって心身ともに安心、安全な生活環境づくりに着手します。

学園を支えていただいているおおくのみなさまに心から感謝を申し上げるとともに、子どもたちと職員にさらなるエールをお願いします。

聖ヨハネ学園



楽しい
思い出いっぱい！

聖ヨハネ学園では、毎年、敬老の日に厨房の職員と一緒に手作りお菓子を作り、ミスブル記念ホームのご利用者様に感謝の気持ちを込めて、プレゼントしています。今回はプリンを作りました。卵をちよūdい色になるまで混ぜました。「もういい？」「作るのって大変やな。」と頑張っている子どもたちの声が聞



こえてきました。プリンを冷やしてかためている間に感謝の気持ちを込めて、蓋に貼るシールにお絵描きをします。思い思いに絵や感謝のメッセージを描きました。「美味しく出来上がるかな？」「早く渡したいな！」と完成するまで待ち遠しい様子でした。完成したものを、直接持つていき、手渡しでプレゼントしました。わくわくと不安でいっぱいの中、ご利用者様から「ありがとう。」と言っていた子ども達は、少し照れながらも満足した様子でした。わずかながらの交流でしたが、とても良い経験になりました。このことがきっかけで、料理

に興味をもつ子どもも出てきています。「ありがとう。」という言葉の素晴らしさに改めて触れることのできる一日になりました。



また、秋と言えばスポーツの秋。十月十一日に地域の「第二十八回清水ふれあい体育祭」に参加しました。八つの地区に分かれて競い合う運動会で、地域の方と力を合わせて頑張りました。リレーやパン食い競争、ジュース早飲みリレー、三人四脚リレーなど、ヨハネ学園からは子どもから職員まで、たくさん競技に出場させていただきました。その中でも、地域の方と一緒に跳んだ大縄では、開始前に少し練習しただけでしたが、三十五回跳ぶことができ、一位になることができました。参加した子どもたちはもちろん、応援していた子どもたち、職員、共に大喜びでした。地

区としての総合順位は三位でしたが、応援部門では見事、一位に選ばれ、またみんなで大喜び。気持ちの良い一日になりました。

少しのきっかけがとても大きな自信につながる経験になり、子どもたちのますますの成長を期待しております。

下田部保育園



今年の準備体操に……！

10月8日木曜日、堤コミュニティセンターで下田部保育園の第44回体育あそびが開かれました。天候にも恵まれ、絶好の体育あそび日和となり、全園児166名で参加することができました。園児たちが入場すると、グラウンドからはあたたかい拍手が起こり、ゆり組の元気いっばいの選手宣誓の後に各種目が一斉に始まりました。今年は、準備体

操に安全衛生委員会で推進された『ラジオ体操』も取り入れ、子どもたちや職員たちだけでなく、保護者の方々も一緒にになって行いました。

ラジオ体操は、昨年から園で毎週月曜日と金曜日に行われる朝礼にも取り入れており、子どもたちにとって身近な体操になりつつあります。体操という事もあり、腕や膝をしつかり曲げ伸ばししたり、胸を反らしたりする、ひとつひとつの動きにも声をかけながら行っています。今では始めた頃より、子どもたち自身を意識して取り組むようになりました。最近では、47都道府県各地の方言を収録したご当地版のラジオ体操があり、子どもたちも聞き馴染みのある言葉に時折笑顔で反応しながら、楽しんで体操を行っています。



運動会では、かけっこや



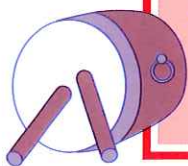
玉入れ、お遊戯など体育あそびならではの競技に子どもたちへの声援や拍手が飛び交い、親子競技ではたくさんの笑顔が見られました。この日のために先生たちと練習してきた成果をひとりひとり全力で出しきることができました。異年齢での種目は、年中組が年少組をリードするなど、成長した姿が随所に見られたように思います。また、のびのびランドや地域の子どもたち、エンゼル園の子どもたちも仲間入りして、楽しい交流の場にもなりました。プログラム最後は毎年恒例の保護者有志によるデカパンリレーが行われ、たくさんの保護者の方

ちにご参加いただきました。子どもたちも、楽しそうに走る保護者を目で追い、大きな声援や拍手で会場を盛り上げてくれました。

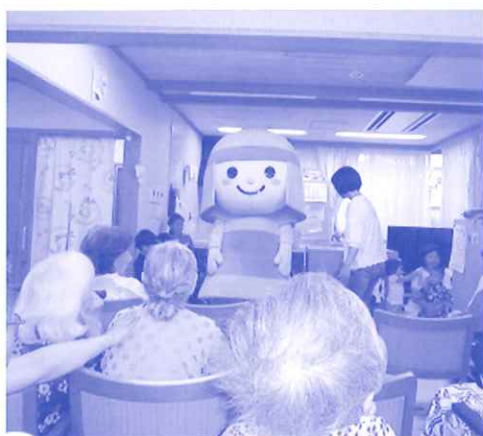
今年の体育あそびも、園児、職員、保護者、地域の皆様と一緒に楽しくすることができ、保護者の皆様のご協力も大きな力となって無事盛会のうちに終了することができました。体育あそびでの経験を、また明日からの園生活や学びに子どもたちが活かしていきたいように職員一同、努めていきたいと思えます。

ミス・ブール 記念ホーム

「夏祭り」



8月23日日曜日ミス・ブール記念ホームの一大イベント、夏祭りが開催されました。昨年は豪雨に見舞われましたが、今年には天候に恵まれ暑さもや



わらぎ、ちようど良い気候の中で実施することができました。

例年は特養の建物のみで行われていた夏祭りですが、今年には小規模特養の建物が開放され、そちらにも屋台や催し物スペースが設けられました。開催範囲が広がったことで以前より皆様スムーズに動き回ることができ、より楽しめるようになりました。さらに今年は高槻のマスコットキャラクター「はにたん」がやって来て、はにたんダンスを踊ってくれました。子どもたちはもちろん、ご利用者様にも大人気で、皆様驚きつつも嬉しそうに「はにたん」と握手

をしたり、子どもたちとはに
たんダンスを楽しみました。

また毎年恒例の高槻北高校
和太鼓部による和太鼓演奏も
行われ、ホームで一番広いフ
ロアーが満員になりました。

文字通り体に響いてくる演奏
に感動し涙を流して喜んでお
られるご利用者様もおられま
した。さらに今年は各フロア
を回ってブラスバンド演奏を
してください下村バンドさん
が来てくださいました。屋台
のご飯を食べながら聞かれて
いる方、生の楽器の音色に合
わせ手や体を動かしておられ
る方、またご家族様と一緒に
じっくり聞き入っておられる
方、皆様それぞれのペースで



楽しまれている様子でした。
下村バンドのみなさんはフロ
アに出て来ることが難しいご
利用者様の居室にも、ひとつ
ひとつ訪れ演奏してください
ました。なかなか行事に参加
することが難しいご利用者様
も、とても喜んで演奏に聞き
入っておられました。

来年も良い天気恵まれる
ことを願いつつ、この夜は皆
さまぐつすりと眠られたご様
子でした。

ゆう・あい センター 創作文化教室より



ゆう・あいセンターの創作
文化教室では陶芸・編物・書
道・絵画・パソコン体験が開
講されます。各講座によって
開始時期は異なりますが、開
催時間帯については、午前ま
たは午後の2時間です。対象
者の詳しい募集内容は『広報

たかつきDAYS』に定期的
に掲載されます。

絵画や書道の作品は館内に
展示される事もあります。

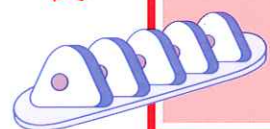
「あつ、Aさんが描いた絵だ。」
と職員がみてわかる時や、セ
ンターのご利用者が立ち止ま
り「誰が書いた字ですか？」
と尋ねられる場面もあります。

出来上がった作品を「これ、
私で作ったよ。」と、嬉しそ
うに職員に見せられる受講者
の方もおられます。作風を何
度も見ていると誰の作品なの
か自然に分かり、それぞれの
個性や、その人らしい作品で
あると感じられます。

パソコン体験教室受講者の
方に話を伺いました。その方
は教室に何年も通われ、教室
に通う事が楽しい様子です。
「還暦過ぎだし、65歳まで何
回通えるかなあ。何回も教室
に通ってるよ。」とニコニコ
しながら話されます。作品を
作るのが好きな方や、教室に
通われるのが好きな方等、創
作文化教室の楽しみ方も色々
あるのだと感じました。

うの花療育園

バイキング給食



うの花療育園では、「食」へ
の取り組みを大切にしていま
す。その1つとして、年に1
回、食べる楽しみを育てる事
を目的とし、各クラス毎にバ
イキング給食を行っています。
バイキング給食の前には、
栄養士とクラス担任が食材の
内容やバイキングの形式等、
クラスの子どもたちが楽しめ
る内容を話し合っており決ま
ります。



療育園では、偏食や食に關心が低い子どもが多く、日々の給食でも様々な取り組みを行っています。特にバイキング給食では、普段とは違う雰囲気や特別感があり、いつもは給食に対し、モチベーションが低い子どもも、楽しく参加してくれることが多いです。

バイキング当日は、始まる前から子どもたちのワクワク感が広がり、普段なかなか療育室に帰って来ない子どもが何回も療育室を覗いたり、進んで給食の準備を行う様子が見られました。バイキングが始まると、まずリーダーの職員が見本を示します。それを見て、子どもたちは同じよう



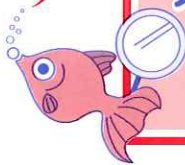
に食べたい食材を指さし等で選んでお皿に盛りつけてもらいます。普段は指さしで意思を伝えられない子どもが、バイキングの楽しい雰囲気の中で、自然と指さしで伝える様子も見ることができました。食事中は、自分だけのオリジナルの給食に満足し、周りの子どもたちの様子も気にしながら、食事を楽しんでいました。食べたい気持ちが高まり、普段はあまり給食を食べない子どもも、知らず知らずのうちにとくさんおかわりを伝える姿が見られました。あっという間に、用意していた食材はなくなり、子どもたちの満足した様子の中、バイキング給食を終えました。栄養士が帰る際には、「また来てね！」「ありがとう！」と感謝の気持ちをしっかりと伝える事ができました。

今回のバイキング給食は、子どもたちの「食」に対する興味・関心を高めるきっかけとなりました。このことをきっかけに、今後の給食でも子どもたち1人1人が食事を楽

しめる環境や提供の仕方等、工夫をして取り組んでいきたいと考えています。後期にはクラス毎で、親子クッキングを計画しています。それを通じて、保護者への啓蒙活動も勧めていきたいと思っています。

地域生活支援 センター光

サマーフェスタ



7月19日、毎年恒例の夏祭りを行いました。今年は「南国」をテーマに、ゲームやカフェ、昼食バイキングを行い、ご利用者とご家族に楽しんでいただきました。

会場として飾り付けられた光の3階にエレベーターが到着すると、まずは宝探しからスタートです。南国風の花や風船で飾り付けられた廊下に隠してあるカプセルを探してもらいます。他にもご利用者からのアンケートで人気のあ



った、水鉄砲や金魚すくい、バランスボールを転がす巨大ボーリングなどのゲームを楽しんでいたいただきました。

カフェのコナーは今年初めての試みでした。普段からご家族の来所頻度が高い光ですが、行事の際には特に多くのご家族が一度に来られます。お茶を飲みながらゆっくりお話ししていただき、ユニットの間を超えて交流する時間を持つていただけただけなのだと思います。

最後は全員集合で「スタッフダービー」を行いました。様々なゲームを職員が行い、

誰が一番になるかをご利用者の皆様に予想してもらおうというこのゲーム、光ではイベントの度に登場する名物企画です。今回は、リンボーダンスや、「万歩でマンボ」（1分間にどれだけ万歩計を振ることができるか）、「箱の中身はなんだろう」などを行いました。フラフープ対決では全員一周も回せないという波乱の展開も。お手伝いに来ていただいたボランティアの方にも身体を張って活躍していただき大盛り上がりでした。

光の職員だけでなく、法人内の他事業所の職員や、今は違う場所で活躍している元職員もボランティアとして駆け



つけ、多くの方のおかげで楽しい1日となりました。みなさまご協力ありがとうございました。

聖ヨハネ 子どもセンター

めばえ教室

第二めばえ教室



めばえ教室では、十月から後期がスタートしました。

めばえ教室では、十月中旬から十一月にかけて公園に出かけます。どんぐりや落ち葉を拾ったり、落ち葉の冠を作ったり、秋を感じながら遊びます。教室の中でも、部屋いっぱいどんぐりを広げて転がしたり小さなバケツに入れたり出したり、ままごとでお料理したり、どんぐりの素材を各々の遊び方で楽しみます。

「すごい音だね!」「おもしろいね!」。楽しい体験を共感しながら「ことば」にする

経験を大切に療育を行っているます。

コアラ教室

一歳三歳児の親子が通うグループでは、十月は近くの公園までお母さんやスタッフと一緒に散歩がてらでかけます。お外に出ると、また新しい自然との出会いにみんなの顔も生き生き。どんぐりをみつけて大事ににぎりしめて歩いたり、お水をペットボトルに入れて、「ヨイシヨ、ヨイシヨ」と砂場まで運んだり、ありを見て思わず立ち止まったり、遊んでいるうちに手も靴も服も泥だらけになったり、すべり台が楽しくて「もう一



回!」と何度も繰り返したり。すみきった空気に、お部屋とはまた違う表情を見せる子どもも、秋を全身で感じて遊ぶ中で、また発達の小さい芽がたくさんでてきていること感じています。

相談支援事業

聖ヨハネ子どもセンターでは、委託相談である〇歳から一八歳の児童の発達の相談と障がい児通所支援を利用する児童への児童発達支援計画作成及び相談を行っています。今年度上半期の新規相談実数は六十五人、延べ人数は二八九人と前年度を上回る相談数となっております。また、計画相談の契約児数は、市内の対象児が八六四人、計画相談支援事業所が九事業所ある中、一一三人を担当させて頂いています。発達に心配なことがあれば子どもセンターを思い出してご相談頂けるよう、今後ともご本人とご家族にとって身近で信頼される相談機関として努めていきたいと思っています。

理事長の日々

理事長 野知卓司

今年には社会福祉事業特に児童福祉関連で新子ども子育て制度や社会的養護の小規模化・家庭的養護化制度が施行されました。又社会福祉法人制度の改正が衆議院で可決され、参議院での審議に移されました。これは再来年度から本格的に実施される見通しとされ、社会福祉法人の変革が具体化します。目指すところは、より社会から評価され支持される社会資源としてその働きが透明であり、社会貢献が目に見え、財務その他の経営状況が公開されている必要があります。当法人もより一層ガバナンスのしっかりした、働きや目標が見える組織として活動するために、経営の要となる本部組織や機能の充実を実現せねばなりません。中長期ビジョン検証委員会でも今年度はこれを重点的に議論しました。6人の施設長に現状把握と変革の方向性・具体化の方

策をレポートしていただきましたし、他法人の状況の調査も行い議論の資料としました。来年度はこれを踏まえて本部組織・機能・分担のあり方を具体化し、それに伴って施設長の若返りを実現する予定です。又採用難が年々顕著になっており定年の検討や人材育成体制の充実も具体化してゆきます。

毎年聖社連(日本聖公会社会福祉連盟)の総会・研修会が催されます。今年は第56回大会として「北陸の宣教と社会福祉事業の歴史と今」のテーマで10月15～17日の3日間金沢聖ヨハネ教会を中心に石川県・富山県の広範囲の地で開催され、米満事務局長、小野児童養護施設長と共に参加しました。

北陸3県には教賀基督教会、福井聖三一教会、金沢聖ヨハネ教会、富山聖マリア教会の4つの教会があり、今回は金沢と富山の教会とそれに連なる社会福祉法人が運営する保育園・特養・児童養護施設を訪れました。金沢聖ヨハネ教

会において開会礼拝と総会が行われ、大西前大阪教区主教から磯新主教に聖社連会長の移譲が完了しました。そのあと社会福祉法人聖ヨハネ会側垣理事長から北陸三県の歴史と現状を詳しくお聴きしました。

羽咋市の海岸近くにある休暇村「能登千里浜」に二泊し、聖ヨハネ会職員の運転するマイクロボス2台で約40人の参加者が移動しました。まず富山聖マリア教会とその近くにある富山聖マリア保育園そして立山連峰に近い上市町にある社会福祉法人聖マリア会「常楽園」を訪問しお話しを聴き、見学しました。教会はそれぞれ1900年頃からの長い歴史を持ちお互いに連携しながら戦争や自然災害など多くの苦難を乗り越えて現在に至っていることを学びまし

た。何よりも此処で出会った教会信徒や施設職員の皆さんの芯の強さと穏やかさ、真摯さ、豊かなサービス精神などに北陸特有のものを感しました。

二日目の夕食は聖ヨハネ会が運営する児童養護施設「しお子どもの家」で子ども達や職員の方々と一緒にバーベキューを味わいました。よく晴れた夕空の下で広い芝生のグラウンドで赤々と燃える焚き木で暖を取りながら、職員の皆さんが準備し調理してくださる色々なものを美味しく食べ、子ども達とも交流でき素晴らしいひと時でした。

今回訪れたどの施設も、その理念や運営方針にキリスト教を前面に出しておられ、屋根や壁に大きな十字架を掲げていることに感銘を受けました。私たちの社会福祉事業の根底にはキリスト教精神があり、全国の聖公会聖職者・信徒そして関係者が支えて下さっていることその基盤には神様の愛があることを改めて思い知り感謝した次第です。



富山聖マリア教会ステンドグラス「母子」

だれが一番偉いだろうか

イエス様と12弟子たちが、最後の晩餐をしている時に、イエス様は突然「あなたがたのうちの一人が、わたしを裏切ろうとしている」と爆弾発言をして、食卓は騒然となりました。誰だろう？あいつでは？と議論が飛び交ううちに、全体の話題は「自分たちのうちで、だれが一番偉いだろうか」に移り、一段と熱がこもったのです。(ルカ福音書22章)その様子を見て、イエス様は「一番偉い人は、いちばん若い者のようになり、上に立つ人は、仕える者(食事の給仕する者)のようになりなさい」と、釘を刺されました。

7月20日に93歳で亡くなった哲学者の鶴見俊輔さんは、「一番病」という病気に侵された知識人が政治家や官僚・学者・社長などになって、日本を動かし狂わせてきたと、自分の父親を例に挙げて述べています。

小学校1年生より2年生がよ

くできて、2年生より3年生ができて、正しい答えは頂点である先生が知っているという学校システム・制度が、東大をピークとするエリートのピラミッド社会を形成したということです。この考え・価値観に染まってしまつと、試験で模範答案を書いて、上の人に認められたい、ほめられたいという人間になってしまふ。だから自由主義が流行れば自由主義の模範答案を書き、軍国主義が流行れば軍国主義へと、安易に転向することに何の疑問も抱かない指導者として君臨し、大きく道を誤ってきたと指摘しています。このような学習上手の人間のことを「つくられた人」と呼び、このときはこういうふうには、ここまで自力で考えたという自分で「つくる人」とを区別しています。本当のエリート、知識人とは、そのような幅・自由・可能性を身に付けた、自分で思想をつくる人と言

うのだというわけです。

道徳と正義と権力が一緒になつて他者にのしかかる怖さを身に染みて知り、闘い続けた哲学者らしい言葉だと思えます。だから「私は、自分の内部の不良少年に絶えず水をやって、枯死しないようにしている」と明言していました。自分の内にある「不正義」「罪」「悪」「卑小さ」を常に自覚しながら生きていたとも言えます。

この夏は、最後の海軍大将となり、江田島の海軍兵学校の名校長と言われた井上成美についての本を2冊読みました。若い時から優秀で徹底的に知の貫いたカミソリ頭脳の持ち主でありながら出世を望まず、対米戦争反対に徹し、東郷元帥の人格化を毛嫌いして、戦後は赤貧生活の中、近所の子供に英語を教え慕われた特異な軍人でした。

(1975年86歳で没)

安保健法が強行された戦後70年目の年、時流に乗らずに自分の視点・立場や価値観を持ち続け、発信しながら生きた鶴見俊輔や井上成美のような偉さを望まない人材が、ますます必要な

ことを感じます。そして、どちらも聖書を熟読した人だったようです。イエス様は、「わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。(ルカ22:32)」とペテロに言われました。

チャプレン 司祭
ペテロ 竹林徑一

社会福祉法人 聖ヨハネ学園 (法人本部)
〒569-1032 高槻市宮之川原2丁目9番1号 TEL&FAX 072-687-0548

- 聖ヨハネ学園 (児童養護施設)
〒569-1032 高槻市宮之川原2丁目9番1号 ☎ 072-687-0541 FAX 072-689-3623
- 下田部保育園 (保育所)
〒569-0046 高槻市登町1番1号 ☎ 072-671-9960 FAX 072-673-8039
- ミス・ブール記念ホーム (特別養護老人ホーム・デイサービスセンター・ケアプランセンター) (ヘルパーステーション・高槻市委託事業/地域包括支援センター)
〒569-1031 高槻市松が丘1丁目21番9号 ☎ 072-688-5138 FAX 072-688-4478
- ゆう・あいセンター (高槻市事業受託/地域活動支援センターⅡ型・委託相談支援事業)
〒569-0075 高槻市城内町1番11号 ☎ 072-672-0267 FAX 072-661-3508
- うの花療育園 (高槻市指定管理事業/児童発達支援センター)
〒569-1131 高槻市郡家本町5番5号 ☎ 072-685-3803 FAX 072-685-3805
- 地域生活支援センター光 (障がい者支援施設・放課後等デイサービス事業)
〒569-1032 高槻市宮之川原2丁目9番1号 ☎ 072-680-1110 FAX 072-691-8300
- 聖ヨハネ子どもセンター (児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業)
〒569-1032 高槻市宮之川原2丁目9番1号 ☎ 072-687-7720 FAX 072-687-7722